

熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2024年3月調査)

「熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2024年3月調査)」を実施した結果を公表いたします。(発送数:279、回収数:118、回収率:42.3%、回収期間:2024年3月1日~2024年3月11日)本アンケートは、県内の観光・レジャーの動向をいち早く捉えるために実施しております。

1. 熊本県観光DI まとめ

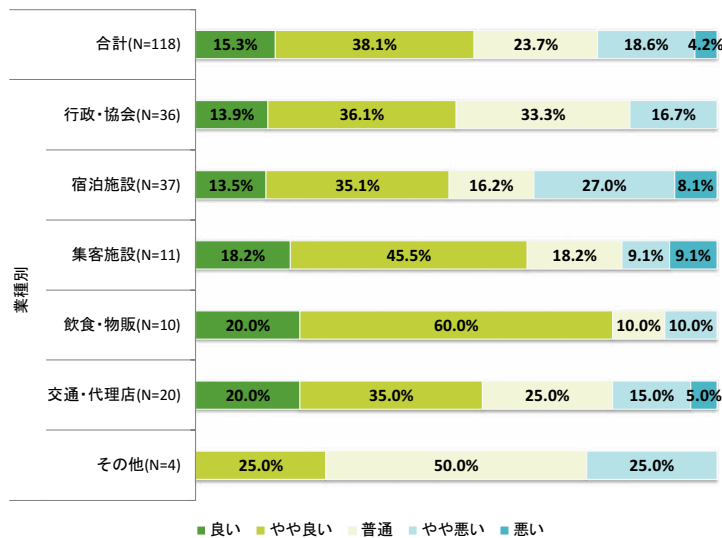
	現状判断DI (1月~3月)	見通しDI (4月~6月)
合計(N=118)	60.4	64.2
行政・協会(N=36)	61.8	66.7
宿泊施設(N=37)	54.7	59.5
集客施設(N=11)	63.6	63.6
飲食・物販(N=10)	72.5	65.0
交通・代理店(N=20)	62.5	68.8
その他(N=4)	50.0	62.5

1~3月の熊本県の現状判断DIは60.4となり、前期(69.6)から9.2ポイント低下した。前期から大幅に低下したものの、業況判断の基準である50を上回っており、引き続き好況が続いていると言える。

コメントでは、コロナ以前の業況の水準に向けて回復が進んでいるとの趣旨が多くみられる。コロナ禍の行動制限が緩和されていること、インバウンド需要の増加が、引き続き景気をけん引している。とはいえ、地域によっては閑散期となるシーズンであること、また、人員不足の影響から「やや悪い」「悪い」という回答もみられた。

見通しDIは64.2となり、前回(54.0)から10.2ポイント上昇した。今後「良くなる」「やや良くなる」要因として、行楽シーズンの到来に伴う団体客等の増加見込み、2月に開所式を実施したJASM第1工場の稼働が近づいていることが挙げられた。一方、「やや悪くなる」の回答では人手不足や価格高騰といった要因が懸念されている。

2. 1~3月期の動向、景況感

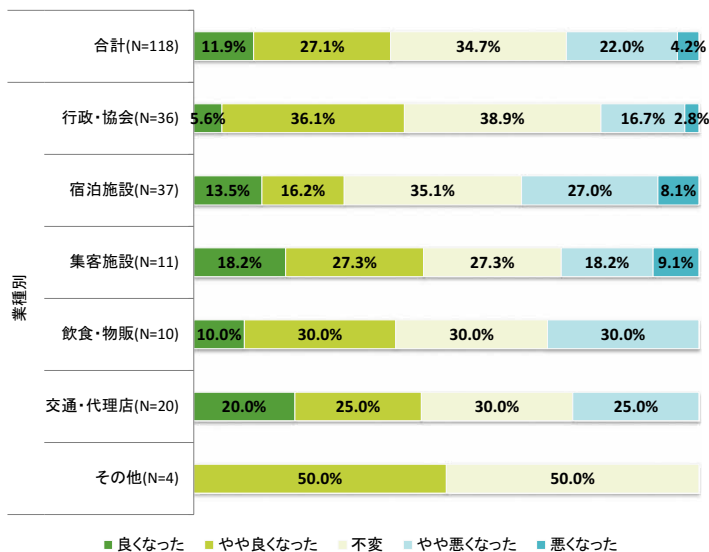


1~3月の景況感は、全体では「良い」「やや良い」の合計が53.4%、「悪い」「やや悪い」は22.8%となった。

【コメントの抜粋】

- 良い
コロナ後、出張・観光・インバウンド全ての需要が回復していると感じる(宿泊施設)
- やや良い
コロナ以前ほどではないが、昨年比べて予約状況が改善してきたため(集客施設)
インバウンド(台湾)が例年より多い。コロナ前より多い(飲食・物販)
- 普通
新型コロナと豪雨災害で長く落ち込んでいたが、ようやく以前に戻りつつある(集客施設)
コロナ禍前より集客人数は少ないが、昨年同時期に比べると集客は上がっているため(飲食・物販)
- やや悪い
冬季は天候や気候の影響により観光客が少ない(行政・協会)
スタッフ激減により、宿泊人数に制限をかけている為(宿泊施設)

3. 2023年10~12月期に比べた1~3月の動向、景況感

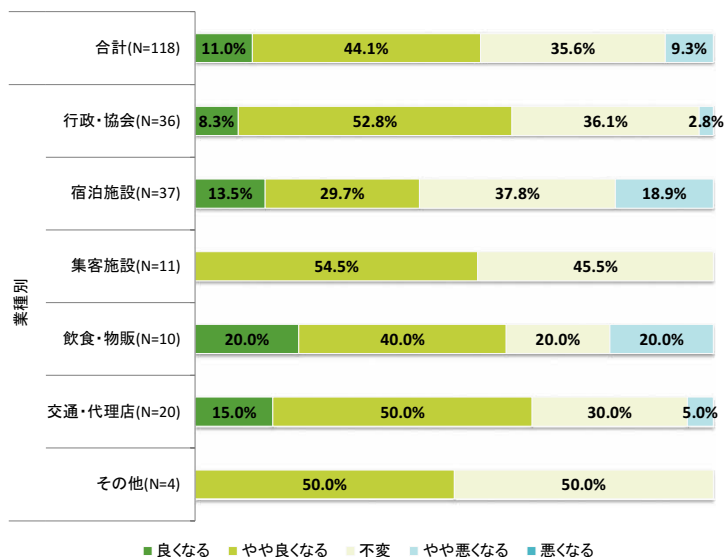


2023年10~12月期に比べた1~3月の動向・景況感は、全体では「良くなった」と「やや良くなった」の合計が39.0%、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計は全体で26.2%となった。

【コメントの抜粋】

- 良くなった
インバウンド客の急回復(飲食・物販)
- やや良くなった
コロナ禍に比べたら回復傾向(行政・協会)
コロナ前に比べ人員は減っているが、単価アップで売り上げはコロナ前に回復してきた(宿泊施設)
- 不変
個人旅行が減少したが、団体旅行が増えた印象(宿泊施設)
季節的な要因を除けば、1月~3月期は10月~12月の予約状況の改善状況と同程度の改善状況と考えるため(集客施設)
- やや悪くなった
TSMC需要がいったん落ち着いたため(宿泊施設)
乗務員不足による受注制限(交通・代理店)

4. 今後、6月までの業況の見通し



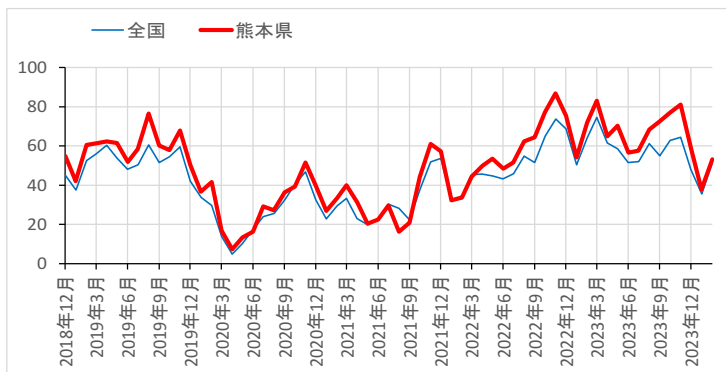
今後3月までの業況の見通しは、全体で「良くなる」と「やや良くなる」の合計は55.1%、「悪くなる」と答えた回答者はおらず、「やや悪くなる」は9.3%となっている。

【コメントの抜粋】

- 良くなる
町の花であるツクシイバラの開花やスポーツ(サイクリングやゴルフ等)による集客が期待できるため(行政・協会)
- やや良くなる
暖かくなり日本人の動向も活発になると考えられる(集客施設)
菊池溪谷のオープンや桜の開花により観光客の増加が予想されるため(宿泊施設)
TSM効果で東京からの出張旅客に期待(宿泊施設)
- 不変
ここ数年、五月連休以外は客足はあまりない。道路は混んでいるが、日帰り客が多く宿泊客は少ない(交通・代理店)
需要拡大が見込めるが、人員不足による事業活動の低迷(行政・協会)
- やや悪くなる
バスの料金値上げで九州内(特に福岡)の集客が落ちると予想されるため(集客施設)

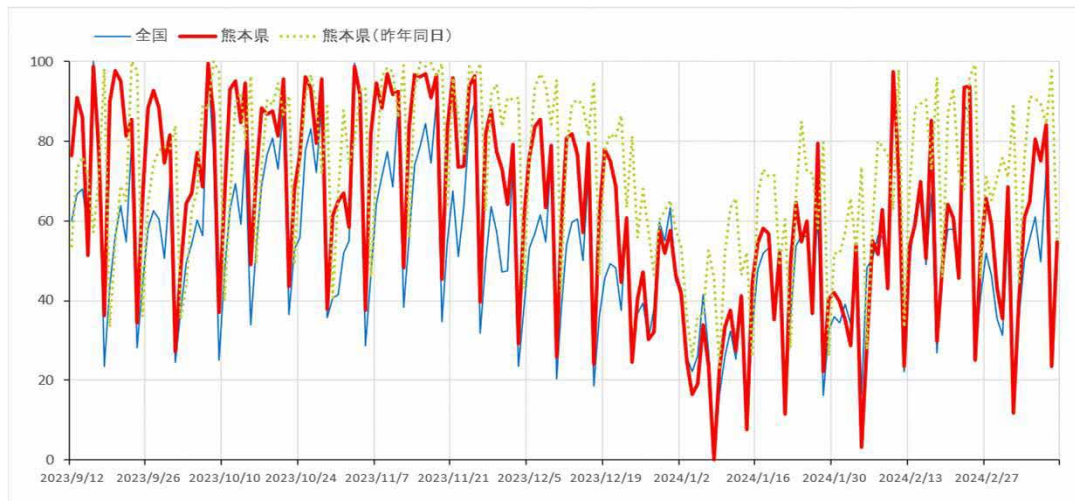
5. 宿泊稼働指数の動向

①月次別



2024年1月における熊本県の宿泊稼働指数は37.9(前年差▲16.3pt)、2月は53.3(同▲18.6pt)となった。
感染状況の落ち着きから前年に宿泊稼働指数が高く推移していたこともあり、直近3か月において宿泊稼働指数は前年差マイナスとなった。また、2月については、2024年1月31日をもって県南地域で実施されていた「くまもと行くモン旅割」が終了した影響も考えられる。しかし、全国では同指数について1月が36.5、2月が51.4であり、熊本県は全国と比較して高位で推移している。
エリア別で見ると、荒尾・玉名地域、水俣・芦北地域では前年差で上昇幅が大きかった。一方、阿蘇地域、八代地域では低下幅が比較的大きい。

②日次別



23年11月から12月にかけて前年を下回ったのち、年末には前年並みまで回復した熊本県の宿泊稼働指数(日別、原数値)は、年始から2月中旬にかけて再び前年を下回る水準で推移した。2月後半は、2月10日(土)に調査期間中最も高い97.4を記録するなど、稼働指数が80を上回る日が6日、うち、90以上の日が3日あるなど持ち直している。特に2月23日(金)からの3連休は、観光需要に加えて大学受験日が重なっていることから、23日が93.5、翌24日が93.7と高い稼働指数を示した。

全国の同指数も同様の傾向で推移した。全国と熊本県の指数を比較すると、金曜日に全国が熊本県の指数を上回る日が散見されたものの、それ以外ではほぼ毎日、熊本県が全国を上回っており、特に土曜日、日曜日においてその傾向が強かった。

用語解説

※DI(ディフュージョン・インデックス)

同調査におけるDIは、現在の景況感(現状判断)、現在と比べた3ヶ月後の見通し(先行き判断)に対する5段階の判断に、それぞれ点数を与え、これらの回答区分の構成比(%)を乗じたものである。(良い…+1、やや良い…+0.75、変わらない…+0.5、やや悪い…+0.25、悪い…0)。DIが50を超えた場合、景気が上向いていることを示す。

※宿泊稼働指数

宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、(公財)九州経済調査協会が推計・公表。原数値は0から100の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。なお、2020年4～6月分については、緊急事態宣言による休業が多く発生していたことから、同期間に営業していた施設のみを分析対象としている。具体的には、以下の式より算出している。

$$100 - \left(\frac{\text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}}{\text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}} \right) * 100$$

本稿では、①月次別では、日次(原数値)データを7日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因を除いたものを単純平均したもの、②日次別では原数値を使用している。